

今回の外部専門員ニュースは中学部2・3年生の木工班の作業学習で御指導いただいている菅井先生より、第3号に引き続き今回も盲学校の様子を御紹介していただきます。多様な幼児児童生徒が通う学校の様子や視覚障害者の実情を、3つの観点からお伝えしていただきます。

視覚障害の世界II

外部専門員 菅井 亮

【①教科書について】

点字と拡大文字と標準教科書があります。全盲の生徒は両手の指先を使って6点の突起で打たれた点字を読み学習していきます。点字は世界共通で英語、数学、化学式、楽譜も書き表す事ができます。私も目をつぶり点字の文章を読もうと努力しましたが無理でした。点字版で文字を打つこと（書くこと）は出来たのですが生徒の皆さんのようにスラスラ読み取る事がいかに大変なのか身をもって体験しました。標準教科書使用の生徒は拡大鏡を使用し文字を大きくして学習していました。点字教科書は標準教科書より大きく、10倍位の厚さになり持ち運びに苦労します。何人かの生徒は分厚く重い教科書を毎日持ち歩き通学していました。

【②通学方法】

皆さんはスクールバスやお家の方、ボランティアの方等と一緒に通学していますが、盲学校の皆さんの多くの方は白杖を使って一人で通学してきます。スクールバスはありませんでした。白杖を使っての歩行は命がけと全盲の先生がよく仰っていました。私の在任中の生徒がJR西八王子駅のホームから線路に転落しました。幸いにも周りにいた乗客の方々に助けて頂き事なきを得ましたが、最悪の事も考えられ障害の重さを実感させられました。又ある日、生徒が額を切り、血だらけで登校して来ました。点字ブロックに沿って白杖で登校中何かにぶつかったとのこと、教員が急いで通学路を点検しましたら、ガードレールすれすれにダンプカーが停まっていてサイドミラーが点字ブロック側に飛び出していました。障害がなければ身をかがめて通る事ができますが視覚障害者は無理な事なのです。街の皆さんの理解がないと大きな事故に繋がります。いつもお店の方に通学路には荷物を置かないようお願いして回ったことも懐かしく思い出されます。

【③視覚障害の世界について】

小学部の児童を教えていた時に印象に残った出来事です。

- ・理科の授業の時、突然「赤い色はどんな色」と質問されました。見えない児童にイメージで説明することの難しさを痛切に体験しました。
- ・教室に誰かのハンカチが落ちていた時のことです、持ち主がわからないで困っていた時、ある児童が臭いを嗅ぎ持ち主を当て無事一件落着となりました。
- ・全盲のご両親の家庭訪問時、暗くなってきたので部屋の電気をつけて頂くようお願いしたとき、私たちは電気がなくても生活できていますが、先生方は大変ですねと言われてしまいました。

【まとめ】もっと沢山の体験を紹介したいのですが、盲学校の様子の一部を紹介させていただきました。明るく頑張っている様子が少しでも伝われば嬉しく思います。